

【長野の長老が手に入れたらしいテキストによる】

怒、
空
の、
は、
こ、
い、
ん、
ご、
ち

クンテキータ・著　ハナポチ・翻訳



こんにちは、ハナポチです。

タマさんに誘われてカナンから引越してきて、それでもう一歳半になったので立派なおスネコだってタマさんが言うので、えーと、緊張してます。だから翻訳をやってみました。僕の言ってること、わかりますか？

長野からカラスのカンタがメール便を運んできました。長老からだって。僕はカラス嫌いだし長老も知らないけど、封筒に入ってたパンフレットには興味があったわけです。見たことない字が並んだ。誰にきいても知らない字だって言うのでネットで調べたらゴシック文字っていうので、ずーと昔のアルファベットみたいな字だったんで、これなら読めるって思って読んだけど、今度はなに語かわかんなかった。それで長野のエドっていう馬に、僕が読んで録音した音声ファイルを送ったら、メソポタミアのアッカド語だってわかったんです。エドは「面倒なことするね。アッカド語なら楔形文字で書けばいいの」って言ったけど、僕にはよくわからない。

でも翻訳は楽しかった。わかんないところをタマさんにきいたら、「わかるところだけ訳して、途中はテキストにツなげばいい」って言うけど、そんなの正しい？僕、真面目に訳したよ。内容が面白くて、とっても勉強になった。みなさんも読んでください。

ハナポチ

ご案内

只今、冥府では働き手が不足、有史以来初めての公開職員募集を行なっています。この文章は現世の皆様に向けた就職案内であり、そのための冥府紹介です。書き至らぬ点多々ありましようが、なにとぞ行間を透かしてお読みになる等、皆様でご推測いただければ幸いです。ご案内であるのにこのような勝手なお願ひ、多忙に免じてお許しください。

まず、私はクンテキンタと申します。冥府の長に命ぜられて広報課長を務めております。正式には冥府総務庁作業策定課広報第三課長であります。この肩書きは自分でも記憶しておりません。今は名刺を出して書き写しました。

私は元は人間で、約五千年前に、今でいうアフリカで山菜取りをしていました。山菜取りのキンタといえは近郷近在では知らぬ者はなく、春はタケノコから秋のキノコまで、特殊な勘によって他人の三倍は採ったものです。ところがある日悪友に誘われ、畑違いの蜂蜜採りに出かけたところ、怒った蜂に追

いかけられ、崖から落ちて落命し、冥府に住み替えを余儀なくされました。私の亡骸は急峻な谷底に横たわったまま引き取り手はなく、獣も近づけぬため、ほとんど風化した姿で今なお放置されています。この状態ですと、どの宗教をもってしても、いわゆる成仏はできません。私が来世をあきらめ、冥府で働き続けているのはこのような理由からです。

私のような特殊事情さえなければ、冥府においてになった後、数万年を経ずして必ずや来世に再生していただけです。多少の待ち時間はありますが、その間に冥府の仕事をお手伝いいただけると非常に有難く、お手伝いいただいた特典として、何万人分かの順番を飛ばしての転生も一応考慮されています。

冥府は多忙を極めて危機的状況です。このままでは彷徨うタマシーが溜まり続け、怨霊が増殖し、いずれは現世に甚大なる影響を及ぼすことにもなりかねません。猫の手も借りてみましたが、一般に動物のタマシーしか扱えず、やはり人間に来ていただくのが最善かつ唯一の解決策とわかりました。

どうか最後までお読みの上、現世に見切りをお付けになって、早めに冥府においでください。

冥府と地獄は違いの？

はい、別物です。業務上の連携はありますがまったく別の役所です。冥府は神様からも閻魔大王からも独立した機関で、人間界で言うところの司法とライフケアを担当しています。また、見方によっては現世とあの世の中間に存在するトランジットステーションでもあります。

冥府の役割は、基本的にはとても簡単で、現世で生命を終了した全動物がまず最初に来る場所です。動物の定義ですけれど、最近では非常に曖昧になり、知能を持つか否かで分けることが難しくなっています。最新のガイドラインでは光合成しない生物を動物とし、光合成すれば植物と看做しています。もともとこれも暫定基準でしかありません。

冥府を含む全冥府の原則では、冥府に来た生物は四十九日目に次の転生先が決まることになっており、私たちも原則に沿うよう全力で励んでいます。しかし残念なことに、現状では四十九日はおろか四十九年経っても転生先が決まらず、あるいは決

は「隠れて食べていたチョコレートを飢餓に苦しむ子どもに与えていたら、一人くらいは助かったはず。私は罪人です」と主張し、地獄行きを望んでいるとのこと。現在専任の説得員が張り付き、昼夜説得を続けています。

一方、これは有名な話ですが、スターリンの場合、自分で天国行きと勝手に決めていて、委員会が地獄行きを告げても従わず、「俺は良いことしかしていない」と叫び続け、ついには精神鑑定を受けることになりました。鑑定は今も続いています。

鑑定の元となる資料は膨大なものです。動物個々の（人間なら個人ごとの）生まれてから死ぬまでの思考と行動が詳細に記録されたログを使います。長寿ですとログは一億ページにもなり、そこから良い要素と悪い要素を選び出し、点数化して評価します。この評価員の大幅な不足も、原則の四十九日を守れない原因のひとつになっています。

それではもう一方の六道輪廻コースはというと、ほとんどのタマシーがこちらに振り分けられます。六道のどれに転生するかは、基本的には当事者の申し立てと地獄の羅卒からの報告で決めるのですが、

まっけてもなかなか転生できません。それが今回の公開職員募集の理由であり、何故そのような大幅な遅延が転生に生じているかは次の項で書きます。

冥府からの転生先は二種類に大別されます。ひとつは「天国／地獄」のどちらかに行く永遠コース、もうひとつは六道輪廻の転生コースです。

永遠コースは、それができた当時にはほとんどの人間に選ばれ、どんな人間でもほぼ間違いないで天国か地獄に行けたそうです。しかし今では、どちらもタマシーの密度が限度を超え、これ以上は収容できなくなっており、たとえ希望してもまず行けません。ですから永遠コースに行けるタマシーは、自薦ではなく冥府の審査委員会が全会一致で合意したものに限られます。しかし希望したり自薦したりは自由なので、審査委員会は無駄な申請の処理で非常に多忙だそうです。

また、審査委員会が「紛れもなく天国（あるいは地獄）行き」と決めても、タマシー自身が異議を唱えることもあるようで、これも多忙の一因になっています。たとえばマザーテレサについて、委員会は天国行きと即座に決めました。これに対してテレサ

両者の言い分が食い違うことも多く、やはりログを参照しなければなりません。しかし冥府は裁判所ではないので、一方的に「あなたは餓鬼道行きです」などと言い渡すことはしません。あくまでも当事者の納得が必要になり、これがまた大仕事です。客観的には餓鬼道行きでも、当事者のほとんどが「修羅道くらいだろう」などと言い張りますから、ログを見せてわかるまで説明しなければなりません。ただ最近では転生先の各道もタマシーでいっぱいになっていて、妥当な場所に行ってもらうことが難しいのも現実です。転生して生まれ変わる動物も希望通りにはなりません。もう転生できればどこでもいいし何に生まれ変わってもいい、という、単なる転生願望だけのタマシーも増え、今では数百億います。

私はこの仕事に就いた当初、迷えるタマシーを希望通りのところに見送って、最後に私自身も正しい道に転生しようと考えていました。今日に至って、どうやらそれは無理のようです。冥府の仕事が滞り、転生先は大混雑、しかも解決の見込みはなく、毎日のように問題は大きくなっています。最近思うんですよ、冥府は地獄だって。

忙しくなったわけは？

とても簡単な理由です。今生きている動物に比べて、死んでしまった動物の数が圧倒的に多いからです。考えてみてください。今地上に生きている動物には両親がいます。両親にはそれぞれまた両親が、その人たちにも両親が、という風に、無限に近い先祖がいるわけです。それが全員生き続けていけば冥府は暇です。その分、地上は生き物で満杯になり、食物の争奪戦が日常化しているでしょう。

ネズミなどの繁殖力が異様に強い動物を除いて、今生きている動物の祖先、三、四代より前はすでに死んでいます。その総数がどのくらいになると思えますか。いえ、私も知りませんが、もしきちんとお墓を作っていれば、地上はお墓で満たされているでしょう。お墓ではなく、これまでに死んだすべての生き物を地上に並べたら、陸も海も満遍なく埋め尽くされるはず。そういった大量の死体はどこに消えたのでしょうか。そうです、土に還った。ですから地上の土は、ほぼ例外なく死体の変化したものだ

いえます。畑の大根も、私の好きな山菜も、死体が腐ってきた土で育っているわけです。気持ちが悪いですか。でも事実です。

動物の死体は土に還ります。でもタマシーはそうはいかない。永遠不滅に残ってしまうんです。記録によれば、この冥府のシステムができたころには、地上の生物の数はそれほど多くなく、タマシーが冥府に来たら規定どおりの四十九日で次の転生ができたそうです。あっ、その頃はまだ天国と地獄は作られていなくて六道輪廻だけでした。

その後、次第に動物の数が増し、タマシーが渡し舟に乗るのに順番待ちをするようになると、冥府の処理能力が追い付かなくなりました。私が来た五千年前には、すでに規定を守ろうにも守れなくなっていて、役人はオーバーワークで、私の前任者などは有給休暇を三五年も取っていなくて、四千九十六日分も溜めていました。私が代わったので、彼（彼女だっけ？）は目度くアシカに転生し、どこかで優雅に暮らしたはずですが。もともと、今頃は冥府に舞い戻っていると思います。

今から三千年くらい前でしょうか、天国と地獄に

行く永遠コースができました。これはそもそも神様という人の取り巻き連中が自分たちの都合で作ったものようです。彼らの考えでは人間が一番偉く、その他の動物は人間に奉仕するための存在だそうです。そのために天国と地獄には人間しか行けず、行ったら帰ってきません。六道にはどんな動物でも行け、そこで死んだら、また冥府に戻ってきます。永遠コースと六道輪廻コースの大きな違いです。

でも、どんな形であれ、タマシーの新しい行き場ができて冥府は助かりました。人間であれば、それがたとえ人間離れた阿呆でも天国か地獄に送り込めます。当時、人間のタマシーなら六道行きは考えずに、せつせと天国か地獄に振り分けたものでした。それがどうでしょう、たった数百年で天国は入場規制を始めたのです。入口に門を作り、質問をして、少しでも愚昧か怪しければ冥府に送り返すようになりました。地獄も同じで、小悪党程度だと在留資格は与えられなくなりました。理由はどちらも土地不足。タマシーの密度が快適な生活の基準値を越えたから、とのことでした。

冥府の長は、天国の主任天使と地獄の悪魔を呼ん

で善後策を話し合いました。会議では三方とも主張を譲らず根競べになり、三年三月と三日続いた末に、天国、地獄は多少の面積拡大を行うこと、冥府は植物界の冥府に頼んで、動物でも植物に転生できる枠をもらうことなどを決めて終わりました。以後、天国と地獄の門は非常に狭くなり、人間のタマシーはめったに行けず、輪廻するしかなくなったのです。

植物冥府の長は粘菌です。粘菌は動物でも植物でもないのですけれど、それが功を奏してか、動物のタマシーが植物に転生することを許してくれました。ただし無制限ではなく、植物種ごとに三割まで、という枠があります。どんな枠があるかと転生先が増えるのは喜ばしいことです。その代わり、砂漠化や大規模伐採で非業な死を遂げた植物たちは動物にも転生できるようになりました。ただ、動物になりたがる植物は皆無なので、これは空文化しています。

タマシーはまさに指数的に増えつつあります。冥府に滞留しているタマシーは地上の生き物の数億倍。人間からミジンコに転生するにも、現在は数百年待ちなんです。ですから人間から人間への豪華な転生は、この世が終わるまでにできるかどうか。

地獄の鬼はじつじついるの？

同じ名前の「地獄」が、実は二つあります。天国に対する地獄は、ただ悪魔に支配されているだけで鬼はいません。非常に居心地が悪い場所だそうで、好んで行く所ではないでしょう。しかし昨今の転生先不足のせいで、どこにも行き場のないタマシイが地獄でもいいから行かせると泣き付いてくることも多く、ある意味で人気のスポットともいえます。

鬼がいるので有名な地獄は、輪廻コースに設けられた六道のひとつ、地獄道です。閻魔大王が取り仕切り、赤鬼青鬼を手下にして、やって来たタマシイに苦痛と絶望を与え続けています。苛める理由は知りません。当初は現世での悪行に報いを与えるためとされてきました。しかし現在、そんなに悪くないタマシイも行きますから、鬼どものサド行為を正当化する論拠は失われつつあるとされています。実際のところは、私は行ったことがないので確かなことはわかりません。

東洋系の方はすでにご存知でしょうが、ここで六

地獄を宣告されると話は別で、その場合は地獄道に行きっぱなしで帰って来られません。

地獄道は他の道と違って、冥界全体に及ぶ権力を持っています。警察行政です。現世の悪人を冥府に引っ張って来たり、各タマシイの生涯ログを管理するのも地獄道です。そこで働く鬼たちは地獄の羅卒と呼ばれ、タマシイの「悪」の部分を暴くのが仕事です。すから、現世の生き物からも恐れられています。

冥府には来るタマシイには、羅卒が調べた悪行の数々が荷札のようにくくり付けられています。書かれた悪行はほぼ全部が誇張されているため鵜呑みにはできません。そこで冥府の役人がもう一度ログを調べるのですけれど、これが大変な作業で、タマシイが長寿だった場合には数十年かかることも珍しくありません。しかし私達は公平公正を旨としており、常に正しい六道に送り出す努力をしています。

天上道と地獄道以外も説明しておきましょう。

上から二番目の人間道には他にはない特性があります。ごく凡庸な人間として生きることでもでき、喜怒哀楽のすべてが揃っています。また、自らの不断の努力によって仏になることが可能な唯一の場所

道の説明をしておきましょう。先にも書いたように、これは天国／地獄から成る永遠コースとは無関係です。

生き物が死ぬと、その生前の行ないによって冥府でランク付けされ、六つの道のどれかに行き先が決まります。上から、天上道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道といい、タマシイはそれぞれの「道」で、もう一度生まれ変わって新たな一生を過ごす。その一生を終えると、再び冥府に戻ってきます。これが永遠に繰り返される輪廻です。たとえ天上道に行ったとしても永遠コースの天国に行つたわけではなく、比較的ラクチンな一生を送れるだけで、ずっと居付けはできません。いずれ天上道で死んで冥府に戻るようになります。天国と天上道の区別がわかっていないタマシイが大多数ですから、冥府では専門の説明員を置いています。

ということは、最低ランクの地獄道に行かされたとしても無期懲役ではない、ということでもありません。苦しみながらも地獄道では死ぬことができ、再び冥府に戻るチャンスが保証されています。これも永遠コースの地獄とは違うところです。ただ、無間

もあります。仏になると死んでも冥府には行かず、天界に昇って仕事を与えられ、六道輪廻から解放されます。これがいわゆる解脱で、言い方を換えれば、仏になるとは自由タマシイになることなのです。

修羅道は、常に揉め事の中で生きる場所です。悩みばかりで解決はありません。ただ結局のところ、悩んでいるのは自分で、揉め事の当事者は自分だと気付けば、次の輪廻では上を目指せます。

畜生道は、まさに仁義無き世界です。理屈は通りません。それ以前に、理論武装するほどの知力を与えられませんから、ただ本能で生き、闘うだけです。誤解の無いように申し添えますと、畜生道は家畜や獣の世界ではなく、人間の中の獣性が支配する理性の無い世界、と思っただければ間違いありません。

餓鬼道は悲惨です。獣性のようなアクティヴィティも失われ、ひたすら物を求め続け、何事も叶えられない貧窮世界です。孤独で飢え苛立ち裸で、食物を求めて、あてもなく彷徨う運命が待っています。懲罰を与える鬼さえいません。帰って来たタマシイによれば、ここが一番辛いとのことでした。

動物も天上道へ行くの?!

もちろんです。永遠コースの天国／地獄は人間限定ですが、六道輪廻はすべての生物に適用されます。良い行ないをしたネコが天上道に行くこともありま

すし、悪いコアラが地獄道に行くこともあります。ただし、ネコがネコのままで天上道に行くかといえ

ば、そうとも限りません。転生する際に、どんな生き物に生まれ変わりたいか希望することができません。冥界の役人としては出来るだけ希望に沿うようにして

いますけれど、哺乳類は人気があります。人間に生まれ変わりたい」というリクエストだと、短くても一万年待ちです。ミミズ程度なら数百年待

てば転生できます。現在、待ち時間は日ごとに延びていて、解消の目処はまったく立っていません。植物冥府との契約で、動物も各種の植物として転生できることはすでに書きました。たとえばアマゾン奥地の開発が及びそうもない地域に生える熱帯雨林の巨木なら、ほぼ人間道相当です。こういう転生は、現世での寿命が長い

ためか人気があります。身分や地位など意味がなくなり

ます。本当なら、このあとすぐに冥府の役人と懇談し、六道のどれかを決めて、転生先と、何に生まれ変わるかを決めることになって

います。ところが、何度も書いたとおり、現在は懇談までに長期間待たねばなりません。運が悪いと千年程度は待つこともあり

ます。待っている間、タマシーはすることがありません。地獄の羅卒に付けられたタグを下げたまま所在

なさをうろつくだけです。このようなタマシーは「未決」と呼ばれ、とても哀れに見えます。最近、十年ほど前ですが、未決にもなっていないタマシーが発見

されました。入域審査場の片隅に隠れていたネアンデル

タール人の母子で、タマシーの群れに紛れて三万年以上もうずくまっていたらしいのです。とんでもない不手際です。入域審査場の管理体制が問題になり、今では益と正月に、一時的に入場規制をして所内をくまなく点検しています。発見された母子は特別措置として即刻審査され、幸い生前の悪事が標準以下だったこともあって六道の好き

なところで転生することになりましたが、あくまでも以前のネアンデル

タール人に生まれ変わります。多数のタマシーを送り込めるのが植物性プランクトンで、畜生道に相当し、待ち時間は十年ほどです。プランクトンだと逃げ回ることもできず、ただ魚に食われるか生き残るかだけの生涯ですが、転生に変わりありません。その他、植物の種類、環境などに

応じて、六道のランク付けがされています。最近では動物に転生するより植物を第一候補にするタマシーも増えてきました。待ち時間が短いためか、それとも動物としてあくせく生きるのに嫌気がさしたからか、理由はわかりません。ただ、どんな動物、植物に転生するかを決めるのは、行く先の六道が定まってからのことで、最初から「日陰の花になりたい」と言っても無理です。冥府にやって来たタマシーは、三途の川のフェリーを下船した後、入域手続きを行ないます。ここ

ではまだ前世の姿のまま、手続きをした途端にタマシー本来の姿に変わります。タマシーは無色透明でウズラの卵程度のサイズ、変形自在、言葉ではなく宇宙エネルギーのヴァイブレーションで意思疎通します。こうなると前世で虎だったか魚だったかはもう関係ありません。前世の

たいと言いつ張るので、冥府の長も対応に苦慮しています。冥府はタイムマシンまでは持っていません。こんなことが現実

に起きるほど冥府は大混雑して起きるか、一役人としても心配で仕方ありません。長い待ち時間の末に、タマシーはやつと審査官と懇談し、生涯タグのデータを元に、必要なら生涯の

ログも取り寄せて六道のどれに転生できるかを話し合います。これに時間がかかるのは想像に難くないでしょう。多くのタマシーは、まさに自分の悪行を棚に上げて上の道を主張します、私たちは懇々と諭し、相応の処遇を提示します。ここで話が折り合わなければ、タマシーはもう一度懇談待ちの列に並ばなければなりませんから、双方必死で侃侃諤諤の議論になるわけです。

どうにか折り合って道が決まると、転生する動物(植物)を決めます。人気のある哺乳類は待ち時間が長く、プランクトンや忌避昆虫だと比較的短いのですが、どれを選ぶかはタマシーの考え次第。そして、転生動物が決まると、そのタマシーは「既決」となって、また長い待機期間に入ります。

タマシ一の待機場所は？

大昔に作られた規定では、三途の川の入域から、転生して冥府を旅立つまでの期間は四十九日間と決まっています。この規定は今でも有効です。有効なだけ情けないのですが。

四十九日なら軒の下でも草葉の陰でも待てるでしょう。ですから今でも待機場所などは特に設けていません。もちろん実情に合わないのはわかっています。しかし規定がある以上、法的に待機場所や宿泊施設は作れないのです。冥府もお役所です。

タマシ一はウズラの卵くらいの大きさですから、さほど嵩張りません。ただ、それが何千億ともなると、地上のスペースをすべて埋めても足りず、実際、未決・既決を合わせて、現在一兆近いタマシ一が転生待ちで現世までも溢れ出ています。その数をちゃんと数えろと閻魔大王からお叱りを受けていますけれど、冥府としては時々刻々増え続けるタマシ一の正確な数を知ったところで良い対策ができるものではなく、それより転生のペースを上げることが最優

先すべきと考え、特に数えてはいません。

今ではタマシ一はどこにでもいて、私のロッカーにも多数が入り込み、机の引き出しはもろろん、弁当箱を開けてもタマシ一が入っている始末。事情を知っている身としては「どいてくれ」とはとても言えず、さりとて、居ていいよとも言えません。

対策が求められるのは冥府の外に出てしまったタマシ一です。現世にも陸といわず空といわず、あらゆる場所に群れを成してひしめいています。通常、生きている動物に危険はありませんが、できれば無用な接触は避けたく、結界シールドを張り巡らせ、規定エリアから出ないように指導しています。結界シールドとは宇宙エネルギーを細い糸にして編んだもので、魚網のような構造で、生きている動物の目には見えません。タマシ一が平常時の卵形をしていれば網の目からこぼれ出ることはありませんが、自在に変形するため、細長くなれば網から抜け出せます。冥府は性善説にたって運営されており、結界シールドを破るタマシ一など想定していませんでした。それだけに、現在頻発しているテロ的行為は非常に残念で、どう対処してよいか苦慮しています。

私個人としては、待ちくたびれて行き場の無いタマシ一が、ヤケっぱちになり鬱憤晴らしを兼ねて様々な悪戯を行う心情は理解できます。彼らは徒党を組んで怨霊と自称し、テロの結果がマスコミに取り上げられると大喜びします。

たとえば順調に飛行している航空機の前で強い風を起こして大揺れにさせたり、偏西風をみんなで押して進路を蛇行させたり、ある地域に雨雲が入るのを阻止して早魃を起こさせたり、海流を捻じ曲げて海水の温度を変えたり、あるいは数万のタマシ一が固まって光を放ちながら空を舞ったりします。現世で起きている超常現象や、温暖化を初めとする異常現象のほとんどは彼らの仕業です。

今、地上も空も結界シールドから逃げ出した怨霊でいっぱい。冥府の規則で、タマシ一は生きている動物に直接干渉してはいけないことになっていて、それをギリギリ守って遊んでいます。もしも直接に接触すれば地獄の羅卒に逮捕され、存在を抹消されますから、ギリギリのスリルも楽しいでしょう。

冥府としては彼らを罰する手段がありません。いや、本来はあったのです。悪さをしたタマシ一を即

座に地獄道に落とし、苦痛に満ちた一生を送らせることが罰になるのですが、これこそ彼らの狙いで、そうしなければすぐに転生できることになり、待っている苦痛から逃れられます。怨霊は、待っているのが苦しいから怨霊になっているのです。

それなら、永遠に転生させない罰も考えましたが、多分逆効果でしょう。転生できないとなれば、怨霊の悪戯はエスカレートするに違いありません。

要するにタマシ一のまま待たせるから良くないので、テストケースとして修羅道のおキアミ（小さな海老）に転生が決まっているタマシ一を集めて、半転生させる試みも行なわれています。数億、ときには数十億のタマシ一をおキアミの卵になる前の細胞に変化させ、固めて海底に沈めます。この状態だとタマシ一には転生が保証され、期待しながら待つため怨霊にはなりません。しかし、ある条件では試みが大失敗に終わる結果も出ています。タマシ一の塊がウツボに食われた場合です。生命力の強いウツボの生気を浴びた半転生の細胞は、ウツボの体内に入った途端に活性化し、一気におキアミになってしまいます。赤潮の原因はこれです。

冥府で働くメリットは？

メリットはあるといえませんが。まず、冥府、輪廻など、あの世（冥界）の状況がすべてわかりません。長い待ち時間を要する人間への転生を希望するのなら、いったんここで仕事に就きながら待てば怨霊にならずに済みますし、なにより正確な待ち時間がわかるので安心していられます。

もうひとつ冥府に居て安心できることは、冥府ではどんな生命も死なない、という事実でしょう。また、冥府の規則には「どんな生物も転生できる」とあるだけで、「転生しなければならん」とは書かれていません。ここに素晴らしい抜け道があります。

仕事に就けば無制限に冥府にいられます。先行き不安の、別の道への転生を無限に先延ばしして、安定したタマシーのまままで過ごせるのです。仕事に就かなければ、何度も書いたように冥府は満員ですから、いずれ転生しなければなりません。長い待ち時間といい、来世への見通しの悪さといい、この辺のストレスは耐え難いものです。

ささいな隠住派まで、生き方は様々なようです。もしかすると、あなたが飼っているかわいいネコも化け猫かもしれません。

隠住派は時々正体を垣間見せます。たとえば有名な英国の楽団員と結婚したために自分も有名人だと勘違いしているヨーコとかいう日本人の正体は砂かけ婆です。お陰で旦那さんは天寿を全うすることなく死んでしまいました。もしかすると旦那のほうも妖怪だったのかもしれませんが。そうでなければ二人でベッドインしている醜悪な写真を公表するような恥曝しな真似はしないでしよう。担当の役所が違うので確かなことは言えませんが。

少し前のノストラダムスも妖怪でした。今は転生して鮫の妖怪になっています。妖怪の特徴として、人心を惑わす実にもっともらしい大嘘を連発できることがあげられます。そのことから、世界各国の政治家の多くは妖怪ではないかと疑われますが、詳しくは魔府にてご確認ください。

妖怪ご希望の方は、フェリーから下りた後、川沿いの柳の根元に長い階段があるそうで、それを下ると案内人がいると聞いています。

実は、タマシーのままにいるテクニクは、もちろん裏技ですし推奨されてもいません。六道輪廻の基本方針に対して極めてグレーゾーンだからです。輪廻を無限に先延ばしすることは、見ようによつては輪廻の原則から外れ、解脱したのと同じになりかねません。どうやって防止するか、如来や菩薩が協議しているそうですけれど、結論が出るとしても数億年先でしょう。それに、この抜け道を一律に禁止してしまうと冥府での労働力が一段と減ることにもなります。ですから当分は黙認のままでしょう。グレーゾーンのついでに、もうひとつ六道輪廻から抜ける方法を紹介しておきましょう。これはまったくの合法です。

妖怪コースに進む方法です。これまで触れてこなかったのは管轄が違うからで、妖怪は魔府という役所が担当しています。妖怪という鬼太郎さんが有名ですけれど、それだけではありません。お化け、ゴースト、化け猫、物の怪、魔女、ポルターガイストなど、洋の東西を問わず、すべての怪しい存在をひっくるめて妖怪といえます。墓場などに住む正統派から、一般社会に溶け込んで死ぬまで正体を明か

さて、冥府の役人は、存在としてはタマシーでも、その直前に生きていたときの姿に見えます。ただし半透明で実体はありません。もし殴り合っても、こちらの拳は相手の体を通り抜けてしまい、格闘技には不向きです。私はアフリカ人なので肌は真っ黒、いつも小粋なアロハシャツを着ていて、シャツも半透明で、触っても何もありません。

役人は無給です。その代わり、何かミスをしても左遷はありませんし責任も問われません。好んで異動するのは自由です。また、雇用契約はなく、お互いタマシー同士ということで馴れ合っています。輪廻転生での多少の優遇はありますが、好きなところへ転生できるほどではなく、自由になるのは転生の先延ばしだけです。

タマシーは何も食べませんから食費は不要。移動は冥府の妖気に乗ればよく、私の通勤時間は十五分程度です。これは私が木の上に住んでいるからで、職員宿舎も用意されていて、仕事の隣にあります。

自分ではまったく問題のない職場だと思っっています。仕事にやりがいもあり、とても現世では叶えられない環境です。あなたも来ませんか？

冥府の役人になるには？

冥府は生き物のうち動物がメインの場所なので、役人候補は、できれば前世が動物の方にお願ひしたいと考えています。是非にということなら植物でも採用されるでしょう。

動物の種類は問いません。前世が哺乳類だと比較的頭を使う職種にまわされるようですが、あくまでも適材適所です。前世の悪行はほとんど問題にされません。無間地獄行きだけが不都合といえば不都合で、普通の地獄行き以上なら採用間違いなしです。なお、偉い坊さんや宗教指導者の推薦状を持つてきても、冥府では逆効果です。今どき本当に偉い坊さんなど一人もいませんから。それに、冥府も含めて、いわゆる「あの世」は無宗教であることに留意ください。死んでしまえばただの死体で、何をどう信じていたかなど関係ありません。

ですから、ごく自然体でお越しください。必要な持ち物はありません。受付時間は常時です。どんな仕事をしたいかを考えてから来ていただく採用が

ソタ州ならフィッツジェラルド劇場が見えるでしょう。砂漠の真ん中で生きてきたスナネズミには、やはり砂の山が見えるはずで。

このように冥府では、やって来たタマシーが違和感を持たないように、そして「ああ、帰ってきたんだ」と感じ、安心してもらえるように、様々な工夫を随所に施しています。

さらに少し進むと、左側に真つ黒で四角い二階建ての喫茶店があります。木造のかなり大きな建物なので見逃しようがありません。風月堂です。冥府には珍しく夜間は営業時間外で入れません。もし閉まっていたら店の前の道路に寝て待ちましょう。道路で寝るのはいやですか？ いえいえ、そのくらいできないと風月堂には入れませんよ。

店内の一階部分は広いサロンです。入ったら右の壁に沿って奥に進んでください、一番奥のトイレの手前があるで階段で二階に上がります。二階は妙に細長いフロアで、冥府ではここだけ、日光が差し込み、天井裏のような爽やかな空気があります。二階フロアの先端に座っているのが受付担当のハングラです。若い男性で、片側のレンズが外れたサンングラ

早くなるでしょう。

役人の採用受付には看板など出していません。次の要領でいらしてください。

三途の川フェリーを下船されたら、入域管理センターの係員に合言葉を言ってください。合言葉は毎年変わります。冥府のサイトに出ていますので憶えてください。すると係員はあなたを半透明の、生前の姿に似たタマシーにします。普通のタマシーはウズラの卵型ですから、だいぶ違った形です。

川沿いの道を川下に向かって歩くと柳の並木道になり、右側に池袋演芸場冥府寄席があります。それについて右に曲がってください。周囲が繁華街になるはずで。昔、浅草にあった芝居小屋や取り壊された日劇が並び、米国のホワイトハウスの建設予定地もあります。なお、道沿いにある自動販売機からは昔のコカコーラが出ます。ピンの形も味も違うので飲んでみてください。無料です。

ここでご注意。右に書いた建物等の風景はタマシーによって変わります。右の例は日本の東京に、ごく近年住んでいた人間（動物）が見るであろう景色で、たとえばタマシーが生きていたのが米国ミネ

スをかけ、ハイライトを吸っているはずで。彼は善良すぎて早死にし、天国か天上道に行くはずが「俺のがらじゃない」と拒否して冥府で働いています。

彼に会うことが冥府での第一歩です。冥界の規則や風習、一般的な知識を教えてもらってください。どんな仕事に就くかも相談して決めます。今だと生き物の生前ログ関係か輪廻転生の相談係が極端に不足していますが、それ以外の仕事でも大丈夫。冥府はどこも労働力不足です。希望の職に就けます。

最後に彼から冥府庁のどこに、いつ行けばよいかを聞き、初出勤までは自由時間になります。

一日でも早く、一人でも多く、冥府の役人になってください。現世で先行き見込みがない人、いつそのこと生き方を変えたい人、お待ちしています。また、見込みはあっても寿命がない人も大歓迎。こちらに来れば寿命の問題は解決します。また、こちらで相談事、心配事がありましたら、私、クンテキンを訪ねてください。いつでもいいですよ。冥府本庁本館北ウイング、第八階層から第九階層に行く階段の踊り場にある「開かずのドア」の奥が私の執務室です。ドアは開きませんが入れます。

最後に

切迫した冥府の状況を現世の皆様知っていたきたたく、太古からの禁を犯してこの小冊子を製作しました。これまでも現世に宛てた個々のタマシーや怨霊からの個人的な通信は、違法ながらもありましたが、冥府発の公式通信はこれが初めてです。どうにかヤリクリし、大幅な作業遅延に目を瞑り、臭いものには蓋をして、問題の存在に気付かぬ振りをする役人根性から、長い間冥府の偽りの安定を装ってききました。しかしもう限界です。いや、すでに遅きに失っています。個人的見解を述べれば、遅くとも千年前には現世に助けを求めるべきでした。

どこかに助力を乞おう、という雰囲気になったのは、やっとここ数十年のことです。どこに乞うにしても、冥界全体を見渡せば、どこもかしこも手一杯。他の役所を助ける余裕は、どの役所にもありません。最後の手段で現世にアプローチするにしても、またまた役人根性が邪魔して半端な企画しか出てきませんでした。たとえばポスターを作ろう、という話が

ありましたが、「人手不足を助けてください」とは言えず、「あなたを求めています」のような婉曲なものばかり。このとき作ったポスターは、白衣を着て三角巾を額に付けた貧相な老人が正面を向き、こちらに向けて人差し指を伸ばしている絵柄で、パロディにしか見えませんでした。

その後、テレビCMを思い付き、「この世とあの世は地続きだ」のキャッチで冥府訪問を促そうとしましたが、どうも別の意味に取られたようで、まるで効果がなかったようです。

こうなればもう事実を包み隠さず伝えて、義侠心に篤いタマシーを呼ぶしかない、この小冊子になりました。ただ、あまり簡単に流布してしまうと、かえって現実味がなくなりそうなので、努力した人だけが読めるよう、あまり使われない言語で書くことにしました。冥府ですから死語を使いました。

今これを読んでいる方、翻訳ご苦労様でした。あるいは好意で翻訳し、発表してくださった方には心からお礼を申し上げます。来世には必ずあなたのそばに生まれ、ご奉公申し上げます。

クンテキンタ拝

やったあー！アフリカ人の友達ができそう。って一瞬嬉しかった。でもさあ、考えてみると、クンテキンタさんが次にこの世に来るのは、早くても数百年先だよ。僕は生きてるだろうか。僕から冥府に遊びに行ければいいけど、帰って来れるかな？一歳半だから、まだ行きっぱなしは困るんだ。

最初に書いたけど、これは長野の長老がくれた文章なんだ。タマさんによると、長老は超自然界に入り込んでると思い込んでるネコで、「認識にギャップがありそう」なんだって。だから、長老にとっては、これは当たり前の話でも、フツのネコや人間にとっては正しいとは言い切れないかもしれないらしい。んーんと、言い回しが面倒だな。タロが読んだので感想をきいたら、「メチャ本当か、まるっきりのヨタ話か、だね」って言った。犬は二進法なんだってわかった。

翻訳に慣れたんで、次はタイガー魔法瓶やってみようか。タマさんと相談しようっと。

ハナポチ

翻訳ネコ近影



僕はもう文豪と呼ばれるにふさわしいと思います

あるいは
怨霊でいっぱい
の空

発表日

ユリウス日 2457037 日

西暦では 2015 年 1 月 14 日

クンテキンタ・著

翻訳ネコ：ハナポチ

著作権管理させてる人間：大塚 明

いないだろうけど、転載するときは管理人に言ってね。黙ってやったらソファーと同じ運命だよ